

人文社会科学部後援会事業報告書 公共哲学ゼミナール
(人文社会科学部法律経済学科法学メジャー・専門ゼミナール)

実施日 2023年9月21日(木)～9月22日(金)

場所 源泉湯の宿 千の谷(群馬県みなかみ町)、みなかみ町内

内容 ゼミ合宿(ワークショップ等)

参加者 3年生1名、4年生4名、引率教員1名(上田)

本ゼミでは、昨年度は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、夏のゼミ行事は日帰りで行った。本年度は行動制限が撤廃されたことを踏まえ、合宿系の企画運営により、4年生(2期生)と3年生(3期生)の有志で1泊2日の合宿を行った。場所は群馬県みなかみ町にある猿ヶ京温泉とその周辺で、1日目はホテル「源泉湯の宿 千の谷」を拠点にワークショップを行い、2日目はみなかみ町内で野外アクティビティを行った。なお水戸との行き帰りおよびみなかみ町内は、ゼミ生が運転する自家用車で移動した。

1日目のワークショップでは、ホテル内の部屋を借り、ゼミ生同士の話し合いにより決めたテーマ、「勉強する意味」「依存と自立」「経済発展は必要か」「チャットGPTと人間不要論」「人生における幸せ」などについてディスカッションを行った。最初に各テーマについて各自が考えたことをカードに記入し、次に全員のカードをグループ分けした。そして参加者がそれぞれ発言し、テーマに関して議論を深めていった。リラックスした雰囲気の中、公共哲学ゼミならではの根源的テーマについて活発な議論が展開された。なおゼミ生が自分たちで議論を進めていったので、引率教員はディスカッションには基本的に加わらず、議論の最後にまとめのコメントするにとどめた。普段本ゼミでは哲学思想の文献講読を主に行っているが、今回はより自由に、互いの意見を出し合うことができた。

1日目のワークショップ終了後は、ホテルでバイキング形式の夕食や温泉を参加者全員で楽しんだ。参加人数が少なかったこともあり、和気藹々とした雰囲気の中、多に盛り上がった。

2日目は朝食後ホテルをチェックアウトし、まずはゼミ生の車でみなかみ町の諏訪峡に移動した。この地は利根川がつくった溪谷となっており、与謝野晶子がかつて訪れ何首も詠んだことで知られる。今回は近隣の道の駅を拠点に散策し、歌碑も訪ねることが出来た。



次に車で猿ヶ京温泉に戻り、「里山体験まんてん星の湯」を拠点として活動した。まずインストラクターの指導の下、赤谷湖においてカヤック体験を行った。赤谷湖は赤谷川を相俣ダムがせき止めて出来た人造湖である。ゼミ生は操縦法を教わってから早速カヤックに乗り込み、最初こそ手間取っていたが次第に慣れて、赤谷湖や上流方面を周遊した。なお本年は貯水率が低下しており、溪谷の奥まで進むことができなかったのが残念であるが、普段出来ない体験をすることが出来た。体験終了後は、施設内の温泉で汗を流した後、夕食をとって解散した。



ゼミ生はコロナ禍のなかで大学生活を過ごしてきており、これまでゼミ生同士の交流は限定的になっていた。今回の活動によって、ゼミ生同士が互いをさらによく知り、結束を強めることができたように思う。なお自家用車による移動が主体であったが、事故に巻き込まれることなく無事に終わることが出来た。来年度はゼミの規模次第ではあるものの、継続開催を期待している。最後に、企画運営を担った合宿係の労をねぎらうと共に、参加者の交通費（高速道路料金、燃料費）を補助して頂いた後援会に厚く御礼申し上げます。

2023年10月4日 上田悠久